

引きこもりとコミュ障のDPP

@u37564863

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、ある幽霊屋敷でポケモンと心を通わし、引きこもり生活を送る少女、エルと、ジョウト地方で少し有名人になった経験を持つトレーナー、マイの冒険の証である。

目次

設定と旅立ち

ここは、何処なのだろう？ 確か私は、あの日起きた大地震で下敷になって死んだはず・・・という事はここは天国・・・？

「そうなるわね、ようこそ、ポケットモンスターの世界へ」

えっ？ エムリット・・・!?!? というかポケットモンスターの世界って!?

「驚くのも無理は無いわ。マイ、貴女は死んだという自覚はあるの？」

私はその問いに上手く領けたのか分からないまま、目の前のエムリットに話を聞いた。どうやら、あの地震は普通の災害ではなく、ディアルガとパルキアが起こした争いの余波らしい。

そして、それで死んでしまった人には、新たにポケットモンスターの世界で転生させるという処置が施された。この大地震で死んでしまった人は2人、私ともう1人居るらしいけど、もう1人は既に転生してるとの事。

「と言っても、これはお詫びだから転生特典っていう物も付けるわ。身体強化とポケモンとの意思疎通。後戸籍とあっちで過ごす為の資金・・・まあ、3万くらいでいいかしら？ あと一つは個別に選んで貰ってるのだけど、何にする？」

えっと、エムリットが出てきたという事は、行くのはシンオウだね。なら、引越してきたっていう設定で、シンオウには居ないポケモン達をパーティに加えたいな。

「なるほど、それならカントー、ジョウト、ホウエン、何処がいいのかしら？後、誰を連れてくるのかしら？」

ジョウトで、イーブイを2匹連れていきたいな。ダメ？

「いいえ、可能よ。ならそれを転生特典にしましょう」

うん、ありがとうございます！

「じゃあ、行ってらっしゃい。あ、そうそう。向こうに着いたらちよつと驚くかもしれないけど我慢してね」

え？

という事があって、私は今、フタバタウンに居ます。机には、ボールが2つと手紙、バッグが置かれてました。

これから、私の冒険が始まるようです・・・正直に言うとなんか不安しかありません・・・ギンガ団と対決するとか、ゲームならいいけどリアルで体験する事になるとは思いもしなかった・・・

そして、手紙に書いてあった事を読むと、ちゃんと指名した通り、イーブイが2匹入っていると書いてあった。が、まだ生まれたばかりでバトルには向かないそう・・・へこたれます・・・

「マイ〜？そろそろ行かないと遅刻するわよ〜」

聞こえた声は私の母親。そうだ、今日は友達2人と一緒にシンジ湖に遊びに行く日だった！こうしちゃいられない！遅れたら罰金だぞ！とか言う私の友達の1人は本当に頭がおかしいみたい。

「はーい！」

「マイー！迎えに来たぞー！」

「今行くよー！」

私はこれから起こる事にわくわくしながら玄関の扉を開けた。